

## <審査員長講評>

### 1. まず体力をつけましょう

体力審査で、多くのパーティーでパーティー行動ができていないとの報告がありました。4人一組のはずが、先頭の一番だけが先行し他の3名は離れていたり、先頭の生徒が後ろを見ない、全体的に声かけが少なくチームとして行動している感じが無いとの指摘がありました。こうした行動は、体力の無いチームに顕著に見られたことから、体力のなさが余裕のない行動に繋がっているものと思われます。ランニングや階段の昇降などの体力トレーニングを部活動の中に取り入れましょう。

### 2. 歩行技術を身につけましょう。

雪道での基本技術である「キックステップ」ができていないパーティーが多く見られました。これは練習・経験を積むことで習得できる技術です。必ず、身につけてください。また、岩や倒木などの大きな障害物をよける際に、頂点から飛び降りるケースが男子に見られました。足の捻挫などの可能性を考えると、こうした行動は慎まなければなりません。特に下りの歩行技術を練習しましょう。

### 3. なぜその装備が必要なのか考えましょう。

装備の審査で、多くのパーティーが「防寒着」および「お湯を沸かす道具」の不備を指摘されました。防寒着は、ダウンジャケット（長袖であること、ベストタイプは不可）かフリースで、ジャージやジャケット、ウインドブレーカーは十分な防寒効果を期待できないのでダメです。また、「お湯を沸かすための道具」は、コンロ、金属食器、ガスボンベの三点で（ボンベ・コンロの代わりに、固形燃料と燃焼台でも可）これらの装備により暖を取り、低体温症を防ぐことができます。北海道は、比較的気温が低い場合が多いですし、雨や強風に長時間さらされると簡単に軽度の低体温症になってしまいます。さらなる重症化を防ぐためにも、「お湯を沸かす道具」が非常に重要です。サブ行動の際は、忘れずに携帯しましょう。

### 4. 設営・撤収の行動の意味を考えましょう。

設営後のテントのケアがほとんどなされていない、張ったら張りっぱなしとの指摘がありました。張り綱のゆるみは、テントの強風への耐久力を著しく落とします。テントが飛んで無くなってしまわないように、出発時は必ず張り綱がしっかり張っているか確認しましょう。また、テント内の整理整頓がなされていない、ゴミの始末（匂いが漏れないようにジップロック等に密閉する）が不十分、就寝時にテント内に登山靴を入れずに外に放置したまま、コッヘル・ゴミ袋・ペグ袋などをテントの前室に置きっぱなし、出発時にフライシートは閉めてあるがテント本体のチャックが開いたままなどの指摘がありました。これらは、野生動物への配慮が全くされていない行動です。登山行動を終えテントに帰ってきた際に、

道具や食料を荒らされたりしないように、テント内外の整理整頓・チャックの閉め忘れなどに十分注意しましょう。

#### 5. 先読みの力をつけましょう。

現在地確認ができていない（行動中テスト）、天気図の点数が非常に低い（天気図審査）、現在地確認は、読図の基本です。今いる場所が分からなければ、この後どんな地形になるのか、あとどのくらいで目的地に着けるのか分からなくなります。現在地が分からないと言うことはすでに遭難しています。また、天気図は今後どのような気象状況が考えられるのかを知る手がかりとなり、今後の登山行動を決める重要な要素となります。読図と天気図は何度も地図を見ること、天気図を書いてみることでしか身につけません。普段の練習をよりいっそう頑張ってください。

#### 6. 計画と反省の力を身につけよう

計画書では、概念図が山頂までで下りがない、一筆書きの線のように書かれているだけで建物などが書かれていない、研究課題の内容が不十分（雪崩の記載なし）、記録書では、メンバーの体調等が書かれていない、登山ルートで特徴的な場所やルートの状況が書かれていない、登山口が何度も出てくる、枚数不足で最後まで記録がされていないとの指摘がされていました。

計画書・記録書は、計画書によって予めその山域の状況と行程を理解して必要な装備を用意し、記録書によって現状を確認して、次回の山行に活かすためのものです。指摘された不十分な点をしっかり理解し、次回の山行にいかせるよう十分な反省をしてください。

#### 7. パーティーマナーは、基本的な社会生活へのマナーです。

集合時間に遅れる、帽子への校名表記が安全ピンで付けられている、下りの雪渓で横に広がって歩いている、リーダー等の指示が聞こえないほどの大きな声で個人的な話題を話し込んでいるとの指摘がありました。時間を守れない、要項等の必要文書をしっかり読んでいない（安全を配慮し、帽子への安全ピンでの装着は不可と明記されています）、場面を考えた行動がとれていないという意味でどれも不適切な行動です。登山行動時は、一定の緊張感を持って行動をしてください。